

1 ありがとう週間

地域に密着した本校では、様々な行事や学校生活を送る上で多くの方々にお世話になっている。そこで、毎年11月の中旬から2週間「ありがとう週間」を設定し、児童が感謝の気持ちを伝える活動をしている。児童は、プレゼントを作り、それを持って地域を回り、尊敬や感謝の気持ちを直接伝えている。



写真1 感謝の気持ちを伝える児童

その活動の中で、自分の考えや思いを表現する経験を重ね、多くの人とのコミュニケーションを深めることができている。人との関わりがうまくできない児童が多くなってきていると言われていたが、このような活動をすることで、本校の児童は、地域のほとんどの人と顔見知りになり、普段から自然にあいさつや会話を交わしながら生活することができている。

2 敬老会

地域の敬老会では、児童全員が接待をし、お年寄りに喜んでもらえるような出し物を行っている。今年度は、劇「水戸黄門」と紙芝居「えんてん」を9月の敬老会で発表した。児童は、場面の様子や気持ちを伝えるために、声の大きさや言い方を工夫しながら練習に取り組んでいた。当日は、児童みんなが自信をもって出し物を行うことができ、観客から大きな拍手を頂いた。



写真2 劇「水戸黄門」

3 総合的な学習の時間(けやき)・学校行事

総合的な学習の時間において、別子という地域のよさとその人材を活用した取組を行っている。例えば、地域のキノコに詳しい方を講師として招いて「キノコ学習会」を行っている。そのほかにも「炭焼き体験」や「炭アート作り」、地域の施設を利用した「宿泊体験学習」など地域に根ざした数多くの体験学習を行っている。また、運動会は住民運動会を兼ねているなど、学校行事も地域と一体となったものが多い。

児童には、それぞれの活動の中で、必ず一人一役を担わせるようにした。そして、司会や感想発表、お礼の言葉など、多くの人前で話をする機会を設け、自己表現する場を設定した。少人数の学校であるため、学校内では自己表現する場面をあまりもつことができないが、地域の多くの人々との交流を通して、大きな集団の中でもしっかりと自己表現できる力を育てている。